



「牧童」

(左：洗浄前、右：洗浄後)

## 美術品管理運用委員会と修復活動

美術品管理運用委員会事務局／管財部課長

竹越 功

慶應義塾には数多くの美術品が収蔵されています。そのなかには、屋外・屋内で目に触れる彫刻・絵画などがたくさんあります。学内の教職員で構成される「美術品管理運用委員会」は、2002（平成14）年の発足以来、そうした美術品の把握・管理・修復・貸出の運用を担っています。

各キャンパス・一貫教育校に点在する屋外彫刻に目を向けてみましょう。それらの劣化調査、洗浄、修復は委員会によって計画的に進められています。創立150年を迎えた2008（同20）年には、志木高等学校にある「牧童」（峯孝作）の洗浄を手がけました。このブロンズ像は、同校の源流である獣医畜産専門学校の卒業生より1982（昭和57）年に寄贈されたもので、設置以来、保存処置がなされていませんでした。雨水による流水痕が縞模様となり、錆も出ていたため、専門家による洗浄・修復を実施、錆による緑色の像を見慣れた生徒や卒業生は、きれいになって黒光りする姿に驚いたようです。

昨年度は、中等部に設置されている初代中等部長の「今宮新先生像」（堀信二作）の洗浄・修復を

実施しました。専門家の指導のもとで中等部生も洗浄作業を手伝い、生徒諸君にとって貴重な経験となりました。また、同じく中等部にある「ユニコーン像」についても、調査と修復計画の作成にあたりました。

三田キャンパスにある「青年」（菊地一雄作）、「平和来」（小山内薫胸像）（朝倉文夫作）、「福澤諭吉胸像」（柴田佳石作）などの屋外彫刻群は、2年ごとに定期洗浄を実施しています。専門家の指導のもと、「博物館学実習」の履修生が授業の一環としてこれに取り組んだこともあり、屋外での展示は、保存性という観点からすれば屋内に劣ります。しかし、より多くの人の目に触れることにより、キャンパスの思い出の風景の一部になっていることでしょう。

また、義塾に絵画や彫刻の寄贈の申し出があった場合も、委員会が対応しています。審査の後、受け入れることになった場合は作品の状況、搬送方法などを確認して、適切な設置場所を検討します。

委員会の活動を通じ、貴重な美術品の数々を皆さんが身近に感じられるようにしたいと思います。